キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ奈教生

左から郷原さん、榊原さん、鈴木さん

Profile プロフィール

教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生
榊原 衣麻（さかきばら えま）さん 愛知県立半田東高等学校出身

教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 4回生
郷原 晴香（ごうはら はるか）さん リバーデルハイスクール出身

教育学部学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生
鈴木 秀介（すずき しゅうすけ）さん 静岡県立袋井高等学校出身

配布したチョコとメッセージカード

大切な人に心からの思いを ── チョコが伝えるメッセージ

学校現場には、自分の性のありようが他の多くの人と違うことに気づき、戸惑い、悩む児童や生徒が数多く存在するといわれています。体の性と心の性が一致しない、同性を恋愛の対象とするなど、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）として戸惑いを抱える子どもたちに、教師として何ができるのでしょうか。そのヒントとなる試みが、奈良教育大学の学生たちによって行われました。今回はバレンタインデーにあわせて、ささやかな、しかしとても意義深いイベントを実施した榊原衣麻さんと郷原晴香さん、鈴木秀介さんの3人に話を聞きました。

矢印はいっぱいあった方が面白い

「バレンタインデーのチョコレートは、大切に思っている人へ気持ちを伝えるものですよね。でも、なんで女性から男性という一つの方向だけなんだろうと思ったんです。矢印はいっぱいあった方が面白いのに、と。」笑顔で話してくれたのは、イベントの発案者である榊原さん。性別を問わず大勢の学生にチョコレートを配ることを思いつき、早速小さなチョコを180個用意しました。オリジナルデザインの包装を考え、カードには次のようなメッセージを添えて。

これは「Dear チョコ」です。
“大切な人”の名前を書き込み、その人に贈ってください。
性別にとらわれる必要はありません。
あなたとその人に幸せが訪れますように。
Happy Valentine's Day!

チョコレートが人を繋ぐ

バレンタインデーは、大切な人に心からの思いを伝える日。性別など関係なく、大切な人と喜びを分かち合える日になればという思いを込めたと榊原さんは言います。準備したチョコは、榊原さんとその友人の郷原さん、鈴木さんの手で、奈良教育大学の食堂で配られました。添えられたカードをじっくり読む人、このイベントを話題に友人と盛り上がる人、チョコを口に入れてからカードに気づく人など、さまざまな反応が見られましたが、何よりチョコを受け取った時のみんなの笑顔がうれしかったと3人は言います。

「私からチョコを受け取った人が、またそれを大切な人に渡す。チョコを介して人が繋がっていく感じがしました。もらう喜びとあげる喜びの両方を感じられるなんてお得ですよね。」と話してくれたのは郷原さん。また鈴木さんはカードのメッセージにふれて次のように言いました。「性別にとらわれず、大切な人に渡してほしいです。その人にとっての大切な人が、異性とは限らないですから。」

性別というカテゴリー

最後に、榊原さんは「カードのメッセージを見て、性別というカテゴリーで割り切れることばかりではないと気付いてくれる人がいたらうれしい」と話してくれました。セクシュアルマイノリティは人口の3～5%いると考えられており、学校現場にも数多くの児童や生徒が存在すると言われています。周囲との違いに戸惑い、誰にも相談できずに孤立感を深めていく子も多いとされる中、「性別にとらわれる必要はありません」というメッセージが果たす役割は決して小さくないでしょう。

バレンタインデーは大切な人に思いを伝える日。大切な人が異性であれ同性であれ、その人の幸せを願う気持ちは変わらない。そんなシンプルな、そして本質的なことに気付かせてくれる取り組みでした。

（文・中谷 いずみ准教授）